

## 6月定例会

6月定例会では各会計補正予算案11件、条例案・その他の議案14件、報告案件4件の審議を行いました。

本会議では、議案質疑に5名、一般質問に13名が登壇し、議論を交わしました。

### 議案質疑

#### 平成25年度一般会計補正予算

どのような内容か？

石鎚ウルトラトレイン  
石鎚山スマートインター  
チエンジ事業

(自民クラブ)

問 合併10周年記念事業の一環として、平成26年度に石鎚ウルトラトレイン大会の開催が予定されており、プレイベントの開催などの準備経費として実行委員会に対する補助金が計上されている。事業開催の緯や運営体制、想定される課題と対応策など、事業の内容を問う。また、ETC車両専用の石鎚山スマートインターチェンジを



石鎚山ハイウェイオアシス

答 石鎚ウルトラトレイン・石鎚山スマートインター・チエンジ事業については、石鎚山ハイウェイオアシスを含む約20ヘクタールを測量し、スマートインターチェンジの概略設計を委託するものである。これを設置することにより、石鎚山ハイウェイオアシス館や椿交流館の利用増進につながり、産業の振興など地域経済の活性化が図られるとともに、震災時の物資輸送や緊急車両の時間短縮効果が高まるなど防災及び危機管理体制の強化が見込まれるものである。設置の可否も含め供用開始時期は未定であるが、今後最も効果的なレイアウト、課題に対する対応策などを検討していきたい。

答 団体営震災対策農業水利施設整備事業は、南海トラフを震源とする地震に備え、農業用ため池の決壊による被害から地域住民の生命・財産の確保を図るため、耐震化済みのため池5か所のハザードマップを作成するとともに、72か所のため池について簡易露出調査などによる現況把握の一斉点検を実施するものである。

一般にハザードマップは、自

設置するための測量設計委託など、事業の内容を問う。

### 答

石鎚ウルトラトレイン開催事業については、近年人気の出てきた山岳スポーツで

あるトレインランニングを合併10周年記念事業の一環として石鎚山系において開催するもので、地域資源の知名度向上や経済効果、地域おこしの効果も期待できることから、事業の実施に向けて検討してきた。

運営は、山岳スポーツ関係有識者をはじめ、地元各種団体や企業などで構成する実行委員会を中心に、協賛企業やボランティアの協力を得て開催する予定

会で協議していく。石鎚山スマートインター・チエンジ検討事業については、石鎚山ハイウェイオアシスを含む約20ヘクタールを測量し、スマートインターチェンジの概略設計を委託するものである。これを設置することにより、石鎚山ハイウェイオアシス館や椿交流館の利用増進につながり、産業の振興など地域経済の活性化が図られるとともに、震災時の物資輸送や緊急車両の時間短縮効果が高まるなど防災及び危機管理体制の強化が見込まれるものである。設置の可否も含め供用開始時期は未定であるが、今後最も効果的なレイアウト、課題に対する対応策などを検討していきたい。

### 農業水利施設整備事業とは？

(西条市民クラブ)

立し、具体的な計画策定、住民説明会を行った後、ボランティアの募集、広報活動など、本大会の開催に向け準備を進めています。イベントは、本年10月の開催を予定している。想定される課題と対応策は、参加者の安全確保、環境面への配慮が考えられ、コース設定や消防・警察・医療機関などとの連携体制の構築などの詳細は実行委員会で協議していく。

石鎚山スマートインター・チエンジ検討事業については、石鎚山ハイウェイオアシスを含む約20ヘクタールを測量し、スマートインターチェンジの概略設計を委託するものである。これを設置することにより、石鎚山ハイウェイオアシス館や椿交流館の利用増進につながり、産業の振興など地域経済の活性化が図られるとともに、震災時の物資輸送や緊急車両の時間短縮効果が高まるなど防災及び危機管理体制の強化が見込まれるものである。設置の可否も含め供用開始時期は未定であるが、今後最も効果的なレイアウト、課題に対する対応策などを検討していきたい。

ある。今後、実行委員会を設立し、具体的な計画策定、住民説明会を行った後、ボランティアの募集、広報活動など、本大会の開催に向け準備を進めています。イベントは、本年10月の開催を予定している。想定される課題と対応策は、参加者の安全確保、環境面への配慮が考えられ、コース設定や消防・警察・医療機関などとの連携体制の構築などの詳細は実行委員会で協議していく。

石鎚ウルトラトレイン開催事業については、近年人気の出てきた山岳スポーツで

あるトレインランニングを合併10周年記念事業の一環として石鎚山系において開催するもので、地域資源の知名度向上や経済効果、地域おこしの効果も期待できることから、事業の実施に向けて検討してきた。

運営は、山岳スポーツ関係有識者をはじめ、地元各種団体や企業などで構成する実行委員会を中心に、協賛企業やボランティアの協力を得て開催する予定

会で協議していく。石鎚山スマートインナー・チエンジ検討事業については、石鎚山ハイウェイオアシスを含む約20ヘクタールを測量し、スマートインターチェンジの概略設計を委託するものである。これを設置することにより、石鎚山ハイウェイオアシス館や椿交流館の利用増進につながり、産業の振興など地域経済の活性化が図られるとともに、震災時の物資輸送や緊急車両の時間短縮効果が高まるなど防災及び危機管理体制の強化が見込まれるものである。設置の可否も含め供用開始時期は未定であるが、今後最も効果的なレイアウト、課題に対する対応策などを検討していきたい。

### 団体営震災対策農業水利施設整備事業とは？

(西条市民クラブ)

大地震や大雨など災害対策を検討する際に必要となるため池の一斉点検や、地震による被災を想定したハザードマップを作成することは、ため池の周辺に暮らす住民にとって重要なことである。



半吉谷池（小松地区）

災害時には、情報が思いどおりに伝達されないということもあり、住民間で被災を想定した細やかな訓練が必要ではないかと考える。ハザードマップ作成以降、対象地域住民への周知はどういう方法を考えているのか。

然災害発生時の人的被害を防ぐことを目的に、浸水区域などの被害に関する情報を地図上に分かりやすく表示したものである。今回のため池ハザードマップの作成では、地震により、ため池が決壊した場合を想定して氾濫解析により被害想定区域図を作成し、その後、地域住民との情報交換を行いながら避難経路や避難場所などを定め、ハザードマップを完成させることとしている。

完成したため池ハザードマップについては、市のホームページへの掲載、関係各戸への配布を行うだけでなく、危機管理担当部署とも連携して地域住民への周知に努め、災害時の安全確保を図りたい。